

資料 1

本文中での文献引用の仕方

文献からの引用には、文献の文章をそのまま抜き出す場合と、自分の言葉でまとめて書く場合がある。どちらの場合も、書誌情報を本文中に明記し、引用部分と本文の区別を明確にしなければならない。

- (a) 本文中に示される書誌情報は基本的には、著者の姓と、著作あるいは論文の出版年である。
- (b) 姓と出版年は、半角コンマ＋半角アキで区切る。
- (c) 外国人名をカタカナ表記する場合、発音の表し方は何らかの方法で調べておく。

1. 文献から文章を直接引用しない場合

文献から文章を直接引用するわけではなく、他の研究者の業績に言及した場合や自分の言葉でまとめなおした場合でも、必ず参考にした文献を本文中に明記し、「引用文献リスト」に載せなければならない。他人の業績に依拠した議論の部分と自分自身の議論部分を不明確にした形で論文を書くことは許されず、盗作とみなされるので気をつける必要がある。なお、専門論文の場合は文章を直接引用しないような文献の用い方も「引用」と呼ぶので注意すること。以下の条件(a)～(g)に合わせて、著者名と出版年を示す。

(a) 著者が 1 人の場合

- a-1. 文頭：Newcomb (1954) によれば…／ニューカム (1954) によれば…
- a-2. 文末：…が報告されている (南, 1957)。／…といわれている (Newcomb, 1954)。
混同するおそれがあるときのみ、名あるいはイニシャルも付ける。
- a-3. 文頭：南博 (1957) は…／T. M. Newcomb (1954) によれば…
- a-4. 文末：…が報告されている (南博, 1957)。／…といわれている (T. M. Newcomb, 1954)。

(b) 著者が 2 人の場合

2人の著者による共著の場合は引用ごとに両著者の姓を書く。著者の姓と姓の間は、日本語では中黒(・)、英語では&で結ぶ。

- b-1. 文頭：田中・松山 (1955) は…／Parsons & Shils (1951) は…
- b-2. 文末：…した (田中・松山, 1955)。／…した (Parsons & Shils, 1951)。

(c) 著者が 3 人以上の場合

3人以上の著者による共著の場合は、初出のときに全著者の姓を書く。アルファベットで姓を表記する場合半角コンマと半角 1 字分で区切り、最後の著者の前に半角コンマと半角 1 字分あけて&を置く。2 度目以降の引用では、第 1 著者の姓のみ記し、他の著者は日本語では(ほか)、英語では(et al.)として略す。

c-1. 初出時

c-1-1. 文頭：大森・山田・宮田（1977）は…／Messick, Moore, & Bazerman（1997）は…

c-1-2. 文末：…した（大森・山田・宮田，1977）。／…した（Messick, Moore, & Bazerman, 1997）。

c-2. 2 度目以降

c-2-1. 文頭：大森ほか（1977）は…／Messick et al.（1997）は…

c-2-2. 文末：…した（大森ほか，1977）。／…した（Messick et al., 1997）。

(d) 一度に 2 つ以上の文献を示す場合

d-1. 著者姓のアルファベット順に並べ、半角セミコロン (;) で区切る。

d-1-1. 文頭：林（1956）; Horst（1965）は…

d-1-2. 文末：…した（林，1956; Horst, 1965）。

d-2. 同一著者の文献が複数ある場合、年次順に並べコンマで区切る。

d-2-1. 文頭：斎藤（1981, 1985）は…

d-2-2. 文末：…した（斎藤，1981, 1985）。

d-3. 同一出版年のものは、出版年の後に a, b, c を付けて区別する。

d-3-1. 文頭：祖父江（1959a, 1959b）は…

d-3-2. 文末：…した（林・今市，1998a, 1998b, 印刷中 a, 印刷中 b）。

(e) 翻訳書の引用をする場合

最初に原典の書誌情報を記し、次に翻訳書の書誌情報を記す。

e-1. 文頭：Lind & Tyler（1988 菅原・大淵訳 1995）は…

e-2. 文末：…を示唆した（Lind & Tyler, 1988 菅原・大淵訳 1995）。

(f) 新聞の引用をする場合

f-1. 署名記事の場合は記者名、新聞名、年の順に記す。

f-1-1. 文頭：佐藤（朝日新聞，2005）は…

f-1-2. 文末：…した（佐藤，朝日新聞，2005）。

f-2. 署名記事ではない場合は新聞名から記す。

f-2-1. 文頭：朝日新聞（2005）では…

f-2-2. 文末：…と記されている（朝日新聞，2005）。

(g) ウェブサイトから引用する場合

著者名と URL を記す。著者名が分からない場合はウェブサイトのタイトルと URL を記す。

例：文献から文章を直接引用しない場合

以下、論文から抜粋して文章を直接引用しない場合の表記の例を示す。

周知のとおり、利用と満足研究は、理論的でなく研究ごとの結果に統一性がない、個人主義的・心理主義的すぎる、欲求・動機など中心となる諸概念の定義があいまいである、オーディエンスの能動性を過度に強調している、ニーズが生じてくる社会的・歴史的な文脈に対する視点が欠如している、など多くの厳しい批判を浴びてきた (Blumler, 1979; Elliott, 1974; Lull, 1995; Morely, 1980; Swanson, 1977)。

必ずしも十分な形ではないにしても、こうした批判にこたえながら、利用と満足研究は80年代以降も新たな展開を見せている。Rubin(1994)は、近年の研究動向として次の6つの方向性を指摘している。すなわち、(1) メディア利用の動機とメディアに対する態度や利用行動との関連性の探求、(2) メディア間あるいは内容ごとの利用動機の比較、(3) メディア利用を生み出す社会的・心理的状況の検討、(4) 「追求される充足」(gratification sought=GS)と「得られた充足」(gratification obtained=GO)との関連性の分析、(5) メディア利用の動機や利用者の属性などが、いかにメディア効果の大きさ、充足感、パラソーシャルな相互作用などに影響するかの分析、(6)メディア利用動機の測定方法(信頼性や妥当性など含めて)や分析方法の検討、である。

(中略)

利用と満足研究の視座は、多メディア・多チャンネル時代においても、例えばCATV(Heeter & Greenberg, 1985)、ホームビデオ(Levy, 1987)、パソコン通信(池田, 1990)、携帯電話(中村, 1996)といった様々なニューメディアに積極的に継承・適用され始めている。それは一つには、こうしたニューメディアがもつ特徴(例えば、双方向性)が、既存のメディア、とりわけ地上波テレビと比べて、利用と満足研究が前提としている「オーディエンスの能動性」概念にきわめて適合していることによるからであろう。

2. 文献から文章を直接引用する場合

論文や書籍などの文章をそのまま抜き出して直接引用する場合は、引用部分の直後に書誌情報(著者名、出版年、ページ)をつける。繰り返し同一論文、同一書籍を引用する場合も上記の書誌情報を記し、「前掲」「ibid」という表現は使わない。

(a) 短い引用

文献から短い文章を引用する場合、本文中にかぎカッコ「」でくくる形で引用する。引用する文章中に「」が使われている場合は『』に変える。

一般的形式：…本文…、「…引用する文章…」(著者名、出版年、p.ページ(複数のページにまたがる場合はpp.〇〇 - 〇〇))…本文…。

(例)

ニュースのディレクトリー的役割とは、「世界のニュースの全体像を提供すること」(和田, 1995, p.133)である。和田は、将来の電子新聞(マルチメディア新聞という用語を用いている)の一番の特徴として、…。

(b) 長い引用

引用文が3行以上にわたるときは、前後各1行ずつあける。引用文全体を左側を全角で2字分字下げ、引用であることを明示する。全角1字分の字下げでは本文と行頭がそろってしまうので、引用文と本文との区別がつかない。

例：文献から文章を直接引用する場合

以下、論文から抜粋して長い文章を直接引用する場合の表記の例を示す。

(□は全角1字分のスペースをあけるという意味を表す)

□「社会心理」と「イデオロギー」が対になって用いられているときには、これらの語の意味はつぎのようになる。「社会心理」とは、一定の社会集団によって抱かれる多様な意見とか態度とか好悪の感情など、相対的にアモルフな（非定型な）意識をさし、「イデオロギー」とはそのようなアモルフな社会心理が、特定の思想家の理論形成の営みによって整序され、結晶化された思想を意味する。この場合、「イデオロギー」は「観念形態」と訳される。

□ちなみに高橋は、この両概念をつぎのように特徴づけている。

【1行分あける】

□□思想・理論・教義などを含む狭義の「イデオロギー」が知識階級を主体とした目的意識的な所
□□産であるのに対して、「社会心理」は大衆的基盤における自然成長性をその特徴としている（高
□□橋, 1965, p.333）。

【1行分あける】

□高橋は、続けてこう述べる。

【1行分あける】

□□そして、「イデオロギー」が首尾一貫した論理構造をもち、社会成員の心意の方向づけを行な
□□うのに対して、「社会心理」は衝動機構に緊縛されているため矛盾や非合理性を残留させなが
□□らも、社会の実質的エネルギーとして機能する（高橋, 1965, p.333）。

【1行分あける】

□いっぽう、「ユートピア」と「イデオロギー」とが対比されるとき、そこでは思想のもついわば
方向性に目が向けられる。・・・・・・・・

資料 2

引用文献リストの書き方

1. 文献の列挙方法

(a) 文献リストは、本文中で直接文章を引用したものだけでなく、言及したり自分の言葉でまとめたものを含め、引用したものすべてを著者姓のアルファベット順に挙げる。逆に引用していないものを列挙してはいけない。文献リストは論文の最後に示す。また、孫引き（参照した論文が他から引用している箇所を自身の論文でさらに引用すること）は原則としてできない。原典資料を探して引用すること。原典が見つからない場合は自分が参照した論文、およびその論文が引用した論文の両方を文献リストに記載すること。

日本語文献と欧文文献は分けず、アルファベット順に並べる。

一文献の書誌情報が2行以上になる場合は、2行目以降はTABキーで字下げする。

(b) 見出しは「引用文献」（欧文では「References」）とする。

(c) 書誌情報（著者名、出版年等）の順については(3)以降を参照。

(d) 文献列挙の順番については文献番号はつけず、姓のアルファベット順に並べる。

d-1. 姓が同じ場合は、名のアルファベット順に並べる。

d-2. 共著の場合で、第1著者が同じで第2著者が異なる場合は、第2著者姓、第3著者姓のアルファベット順に記す。

(例) 橋元良明・福田充・辻大介 (1999). ……

橋元良明・辻大介・福田充 (1997). ……

* 第2著者の福田(F)と辻(T)では福田(F)の方が早い。

d-3. 著者が単独である文献と、第1著者として共著である文献とがある場合は、単独のものを先にする。

(例) 斉藤慎一 (1999). ……

斉藤慎一・萩原滋 (1998). ……

* (1999) は単独、(1998) は共著であるので、上記の順になる

d-4. 同一著者の文献が複数ある場合は、早い年次から並べる。

(例) 岩男寿美子・萩原滋 (1995). ……

岩男寿美子・萩原滋 (1999). ……

d-5. 同一著者の同一出版年のものは本文に出てきた順に付けた出版年のa,b,c... の順に列挙する。本文中の引用箇所でのa.b.c... と同じでなくてはならない。

(例) 小田浩一 (1998a). ……

小田浩一 (1998b). ……

2. 著者名の書き方

(a) 日本語文献の場合、著者名は姓名を書く。姓と名の間はあけず続けて記す。

(例) 大石裕 (2007). ……

(b) 欧文文献の場合、姓、コンマ、半角スペース、名のイニシャル、ピリオド（以下すべて半角ピリオド）を記す。

b-1. 基本

(例) Scheufele, D. (1999). ……

b-2. 同名の人物が複数いるなどでイニシャルだけでは不十分と考えられる場合は、名を略さずに書く

(例) Weaber, David H. (1978). ……

(c) 共著の場合

c-1. 日本語文献の場合 中黒（・）で著者と著者の間を区切る。

(例) 本間道子・都築真知子・渡辺美由紀 (1985). ……

c-2. 欧文文献の場合

c-2-1. 著者が2名のときは 半角スペースと &、半角スペースで著者の間を区切る。

(例) Kaufman, J. R. & Cochran, D. F. (1987). ……

c-2-2. 著者が3名以上のときはコンマ、半角スペースで著者と著者を区切り、最後の著者の前のみコンマ、半角スペース、&、半角スペースを置く。

(例) Kaufman, J, R., Jones, K., & Cochran, D. F. (1992). ……

(d) 団体や機関が出している出版物の場合：団体や機関名は、名称を略さずに書き、個人名と同様に並べる。

(例) 法務省法務総合研究所 (1997). 犯罪白書 (平成9年版) 大蔵省印刷局.

3. 書籍の書誌情報の書き方

(a) 情報の記載順

a-1. 日本語文献の場合：〈著者名＋半角アキ＋半角パーレン＋出版年＋半角パーレン＋ピリオド＋半角アキ＋タイトル／サブタイトル＋全角スペース＋出版社その他＋ピリオド〉の順に記載する。

(例) 原岡一馬 (1970). 態度変容の社会心理学 金子書房.

a-1-1. 数巻にわたる書籍の特定の1巻を示す場合は、下記のように記す。

(例) 三木清 (1946). 構想力の論理 (第一). 岩波書店.

池内一 (編) (1977). 集合現象 講座社会心理学3. 東京大学出版会.

a-2. 欧文文献の場合：〈著者名＋出版年(カッコに入れる)＋ピリオド＋半角スペース＋タイトル／サブタイトル＋出版地＋コロンの(：)＋出版社＋ピリオド〉の順に記載する。洋書の表題はイタリック表記とし、独語以外は最初の語のみを大文字とする。

(例) Schelling, T. (1960). *The strategy of conflict*. Cambridge, MA: Harvard University Press.

a-2-1. 版数などを示す場合は表題後のピリオドの位置がカッコ () の後であることに注意する。

(例) Rubin, J. Z., Pruitt, D. G., & Kim, S. H. (1994). *Social conflict: Escalation, stalemate, and settlement (2nd ed.)*. New York: McGraw-Hill.

a-2-2. 数巻にわたる書籍の特定の1巻を示す場合は、次のように記す。

(例) Wyer, R. S., Jr. & Srull, T.K. (Eds.) (1994). *Handbook of social cognition: Vol. 1. Basic processes (2nd ed.)*. Hillsdale: Lawrence Erlbaum.

(b) 編集、監修になるもの

b-1. 日本語文献には (編) (監) (編著) を編者名のあとに入れる。

(例) 矢澤澄子 (監) (1997). ……

b-2. 欧文文献では編者が1人の場合は(Ed.)、編者が複数の場合は(Eds.) を編者名の後に入れる。

(例) Kramer, R. M. & Messick, D. M. (Eds.) (1995). *Negotiation as a social process*. Thousand Oaks, CA: Sage.

(c) 著書・編集書・監修書の特定の章のみ引用した場合

c-1. 日本語文献の場合、〈著者名、出版年、ピリオド、章の題目、著(編)者名、書名、() に入れて章の掲載ページ、ピリオド、出版社、ピリオド〉を書く。

(例) 鈴木裕久 (1972). 受け手の特性と広告効果 飽戸弘 (編) 広告効果-受け手心理の理論と実際 (pp. 252-271). 読売テレビ放送.

c-2. 欧文文献の場合、〈著者名、出版年、ピリオド、章の題目、Inに続けて著(編)者名のイニシャル、ピリオド、半角スペース、姓、書名、() に入れて、掲載ページ、ピリオド、出版地、出版社、ピリオド〉を書く。章の題目はイタリックではない。

(例) Maccoby, E. E. & Martin, J. (1983). Socialization in the context of the family: Parent-child interaction. In P. H. Mussen (Series Ed.) & E. M. Hetherington (vol. Ed.), *Handbook of child psychology: Vol. 4. Socialization, personality, and social development (4th ed., pp. 1-101)*. New York: Wiley.

(d) 翻訳書

外国語から日本語への訳書の場合は、まず原典の書誌情報を記し、() 内に訳書に関する情報を示す。最後のピリオドは () のあと。

(例) Lind, E. A. & Tyler, T. R. (1988). *The social psychology of procedural justice*. New York: Plenum. (菅原郁夫・大淵憲一(訳) (1995). フェアネスと手続きの社会心理学: 裁判、政治、組織への応用 ブレーン出版).

(e) 逐次刊行物の場合

e-1. 日本語文献の場合は著者名、出版年、題目、誌名、コンマ、巻数 (号数や通し番号)、コンマ、掲載ページを示す。最後はピリオド。

(例) 延島明恵 (1998). 日本のテレビ広告におけるジェンダー描写 広告科学, 36, 1-14.

- e-2. 学会抄録を引用した場合は、誌名の箇所に抄録集名、カンマ、ページを記す。
(例) 池内裕美・藤原武弘・土居伊都子・脇本忍 (1997). 阪神大震災による拡張自己の非自発的喪失 日本社会心理学会第38回大会発表論文集, 350-351.
- e-3. 欧文文献も日本語文献と同様に記入する。ただし誌名はイタリック表記、誌名のあとは半角コンマ、巻数等のあとも半角コンマにする。
(例) Maslach, C. (1974). Social and personal bases of individuation. *Journal of Personality and Social Psychology*, 29, 411-425.
Van Knippenberg, A. & Van Oers, H. (1984) Social identity and equity concern in intergroup perceptions. *British Journal of Social Psychology*, 23, 351-361.
- e-4. 年報、年鑑等で1997年版が1998年に刊行されている場合
(例) 総理府統計局 (1998). 家計調査年報 (1997版) 財団法人日本統計協会.
- e-5. 誌名だけでは不十分なときは誌名につづき () 内に機関名を入れ、次のように記す。
(例) 柴山剛 (1959). 生産的思考-問題解決過程における抽象的助言の効果 研究集録 (岡山大学), 7, 40-54.
- e-6. 学位論文や修士論文の引用
(例) 大橋英寿 (1996). シャーマニズムの社会心理学的研究 東北大学文学研究科博士論文 (未公刊).
- e-7. 印刷刊行されることが確定しているが未刊である場合
(例) 広瀬幸雄 (印刷中). 環境配慮的行動の規定因について 社会心理学研究.
(例) Anderson, C. A. & Anderson, K. B. (in press) Temperature and aggression: Paradox, controversy, and a (fairly) clear picture. In R. Geen & E. Donnerstein (Eds.), *Human Aggression: Theories, research, and implications for policy*.

4. 新聞・雑誌記事の書き方

新聞・雑誌記事は年月日まで表記する。

- (a) 著者が明らかな場合は著者名、記事タイトルを記す。
(例) 高木潔 (1998). 漁業協定破棄通告——韓国漁民は 朝日新聞3月5日夕刊 東京本社版.
(例) Schwartz, J. (1993). Obesity affects economic, social status. *The Washington Post* (September 30).
- (b) 著者が不明な場合は新聞名、発行年を先頭におく。
(例) 朝日新聞 (1998) 社説：大蔵省はどう関与したのか 3月5日朝刊 大阪本社版
(例) *The Washington Post* (1993) New drug appears to sharply cut risk of death from heart failure. (July 15), p. A12.

5. オンラインジャーナル、ウェブページなどからの引用

(a) 和文の場合

著者名、刊行（発表）年、表題、誌名、巻数（号数あるいは通し番号）、掲載ページ（ページ数表記のある場合）を示し、入手先URL およびデータを取得した年月日を付す。最後にはピリオドを置く。

(例) 川上善郎・川浦康至・山下清美（1998）. サイバー空間における日記行動報告書
<http://www.bekkoame.ne.jp/~y.kawakami/nikki/nikki.html/>（2000年10月25日）.

(b) 欧文の場合は雑誌名をイタリック表記にする。

(例) Parks, M. R. & Floyd, D. (1996). Making friends in cyberspace. *Journal of Computer-Mediated Communication*, 1(4), 1-11.
<http://www.ascusc.org./jcmc/vol1/issue4/parks.html/>（December 1,2006）.

（上記については日本社会心理学会ホームページより抜粋したものに加筆・修正）

参考図書

松井豊（2010）. 改定新版 心理学論文の書き方—卒業論文や修士論文を書くために— 河出書房新社.

（心理学に限らず、論文の構成に添って「はじめに」の書き方から、目的、方法、結果、考察の順で解説されており、わかりやすい本である。統計結果を記述するコツも書かれている）

見本 1

2018年度卒業論文

幼児期のジェンダー観とその形成

2018年12月

人間科学科 コミュニケーション専攻

斉藤ゼミ

K99C2099 小田 陽子

見本 2

2018年度卒業論文 <要旨>

題目 幼児期のジェンダー観とその形成

著者 K99C2099 小田陽子 (齊藤ゼミ)

【目的】本論は、「幼児期のジェンダー観とその形成」をテーマにしている。この論文では、幼児教育段階において、(1) 子どもたちは実際にどのようなジェンダー観を獲得しているか、(2) 子どもたちがジェンダー観を形成していく過程で、保育環境はどのように影響しているか、(3) いったん形成された子どもたちのジェンダー観はどのように維持強化されていくか、を明らかにしようとしている。日常生活の場では、例えば「女＝ピンク・赤」「男＝ブルー」というように、誰もがあたりまえのように連想している。このような固定化したジェンダー観を私たちが、いつ、どのようにして獲得したのか、と疑問を感じたことが研究のきっかけであった。

【方法】本研究では、上記の目的のために、2013年7月から9月にかけて、都内のA 保育園においてフィールドワークを行い、保育士と子どもたちの相互行為と、子ども同士の相互行為を中心とした観察を行った。また保育士への聞き取り調査も実施した。まずジェンダーに関する基本的概念を説明したうえで、先行研究を検討し、幼児期のジェンダー観の形成にとって重要な影響を及ぼす環境的要因について述べた。また先行研究における事例を検討して、保育士の抱いているジェンダー観の重要性を確認し、フィールド調査の概要とその結果をまとめ、A 保育園における子どもたちのジェンダー観の実態とそれに関する保育士の認識に関する実証調査の結果をまとめた。

【結果】保育園には子どもたちのジェンダー観を固定化するおもちゃの配置や、ジェンダー・カテゴリーと対応させた色の配置が観察される一方、保育士は、そうしたことに気がついていないことが明らかになった。

【考察】以上の調査結果を検討し、固定的なジェンダー観をもたない保育士が増えているのもかわらず、なぜ子どもたちのジェンダー観形成に影響を与えやすい保育環境が見過ごされるかを考察し、「自分たちは女の子、男の子という概念はもたずに子どもたちを接している」という保育士の自負が、かえって現実に気づきにくくさせていると結論付けた。

キーワード：幼児期、ジェンダー観、フィールド調査、保育園、相互行為

見本 3(a)

—目次—

第1章	序論	
第1節	問題意識	1
第2節	幼児期のジェンダー	2
第3節	自己とジェンダー	3
第4節	本研究の目的	5
第2章	質問紙実験	
第1節	目的	6
第2節	方法	7
第3節	仮説	8
第4節	結果	9
第5節	考察	15
第3章	フィールド調査	
第1節	目的	18
第2節	調査概要	19
第3節	結果	20
第4節	考察	28
第4章	総合考察	
第1節	結果の概要	30
第2節	本研究の意義	33
第3節	今後の展望	35
引用文献		36
付録		

見本 3 (b)

—目 次—

第1章	序論	1
第2章	テレビの特性	
第1節	放送メディアの特徴	2
第2節	放送メディアと法	3
第3節	フレーム研究	5
第4節	専門家の利用	8
第5節	発表ジャーナリズム	9
第6節	テレビニュース分析	11
第3章	福島第一原発事故について	
第1節	原発事故の経緯	12
第2節	震災直後の各局の報道	14
第3節	原子力村	16
第4章	テレビニュース番組の内容分析	
第1節	研究目的	19
第2節	研究方法	19
第5章	分析結果	
第1節	ニュースの内容面の分析	20
第2節	ニュースの形式面の分析	34
第3節	番組出演者についての分析	54
第6章	考察	63
第7章	結論	76
引用文献		80
<付録>	コーディングシート	
	コーディングマニュアル	
	番組構成表	

見本 4

脚注をつける場合

現実世界（客観的現実）、マスメディアの報道や描写（シンボリックな現実）、人々の現実認識（主観的現実）の三者関係を扱ったこれまでの研究は、大きく分けて（1）この三者の複合的な関係を包括的に扱うタイプのもものと（2）客観的現実とシンボリックな現実との関係、もしくは主観的現実とシンボリックな現実との関係のいずれかに焦点をしばって分析するタイプのものがある（Adoni & Main, 1984）。

後者のタイプについてももう少し詳しく言うと、（a）現実の世界（客観的現実）をマスメディアがどう切り取って、マスメディア独自のシンボリックな世界（ニュース報道やドラマの描写など）が形成されているのかを問題にする研究と、（b）マスメディアの伝える内容（シンボリックな現実）が人々の現実認識（主観的現実）にどのような影響を及ぼしているのかを探る研究の2系統に分類できる。このうち後者の代表格といえるのが、ここで取り上げる培養理論（Cultivation theory）である（Gerbner & Gross, 1976; Gerbner, Gross, Morgan, & Signorielli, 1986, 1994）¹。

（中略）

しかし残念ながら、これまでのところそれが実現しているとは言い難い。その原因の一端は、ガーブナーらの批判者たちによって過去20年ほどの間に行われてきた培養理論に関する研究の多くが、過度に実証面にのみ注意を向け、ある意味で重箱の隅をつつくような議論に終始してしまった反面、ガーブナーらが持っていた根本的な問題意識が十分に吟味されてこなかった点にあると思われる²。

これまで行われてきた培養理論に関する諸研究を見ると、ガーブナーらと他の論者との間に、何を培養効果と見なすかについて重要な点で相違が見られるようである。本稿では、ガーブナーらと批判者たちの主張の違いに焦点をあてつつ、培養理論に対する批判やそれに対する反論の整理をしておきたいと思うが、その前にまず、もう少し詳しく培養効果について説明しておく必要がある。

（以下略）

¹ Cultivation theory の訳語としては、他に教化理論や涵養効果理論なども用いられる。また、最近ではカルティベーション理論とカタカナ表記されることもあるが、本稿ではもっとも一般的と思われる培養理論を用いることとする。

² その他の原因として、文化指標研究の中で制度過程分析がほとんどなされていないことや、ガーブナーら自身の研究の中で、理論的主張と実際に実証レベルで扱われている問題との間に微妙なずれがあるからだと思われる。

見本 5

引用文献

- Fidler, R. (1997). *Mediamorphosis: Understanding new media*. Thousand Oaks, CA: Pine Forge Press.
- 福田充 (1998). インターネット時代における電子新聞の利用実態とその影響 情報通信学会年報, 第9号, 79-91.
- 橋元良明・辻大介・福田充・森康俊・柳澤花芽 (1997). インターネット個人加入者の実態 1997—第2回ASAHI ネット加入者アンケート調査報告— 東京大学社会情報研究所調査研究紀要, No.10, 1-71.
- 唐澤真弓 (2000a). 文化心理学 詫摩武俊・鈴木乙史・清水弘司・松井豊(編) 性格の変容と文化(シリーズ人間と性格 第4巻) (pp.213-228). ブレーン出版.
- 唐澤真弓 (2000b). 認知発達への比較文化・文化心理学的接近 田島信元他(編) 発達研究の技法 (pp.212-221). 福村出版.
- 川上善郎・川浦康至・山下清美 (1998). サイバー空間における日記行動報告書
<http://www.bekkoame.ne.jp/~y.kawakami/nikki/nikki.html/> (2008年8月17日).
- Lind, E. A. & Tyler, T. R. (1988). *The social psychology of procedural justice*. New York: Plenum.
(菅原郁夫・大淵憲一(訳) (1995). フェアネスと手続きの社会心理学: 裁判、政治、組織への応用 ブレーン出版).
- Morris, M. & Ogan, C. (1996). The Internet as Mass Media. *Journal of communication*, 46 (1),39-50.
- 日本インターネット協会(編) (1998). インターネット白書99 インプレス.
- 日本新聞協会研究所 (1998). デジタル情報時代 新聞の挑戦—ジャーナリズムは生き残れるか—
日本新聞協会.
- 野村総研 (1997). 情報通信利用者動向の調査—第2回調査結果の概要— 7
<http://www.nri.co.jp/nri/news/971208.htm> (2008年2月17日).
- 小倉毅 (1996). 光ファイバーを利用した電子新聞—サイバープレス読売— 新聞技術, 第157号, 31-37.
- 朝日新聞 (1998). 社説: 大蔵省はどう関与したのか 3月5日朝刊 大阪本社版.
- 高木潔 (1998). 漁業協定破棄通告—韓国漁民は 朝日新聞 3月5日夕刊 東京本社版.
- 辻大介 (1997). 「マスメディア」としてのインターネット—インターネット利用者調査からの一考察 マス・コミュニケーション研究第50号, 168-181.
- 和田哲郎 (1995). マルチメディア新聞 日本経済新聞社.

よい論文を書くためのチェック・ポイント

1) 本文

- 本文表紙の題目は、5月に提出した題目と一字一句同じですか。
- 章・節・項などの見出しが、わかりやすく付けてありますか。
- 研究目的がはっきり記述してありますか。
- 研究目的(研究課題、仮説)と結論が対応していますか。
- 研究目的と関連する先行研究について、充分に言及していますか。
- わかりやすい文章を書くように心がけましたか。
- 誤字脱字や変換ミスはありませんか。友達などにチェックしてもらいましたか。
- かなづかいに一貫性がありますか。(例；子ども)
- 句読点は、全角の「。」と全角の「、」又は「.」「,」で統一していますか。
- 日本語は全角文字、欧文および算用数字は半角文字で入力していますか。
- 記号を正しく使っていますか。
- 要旨に簡潔なキーワードがついていますか。

2) データ

- データの収集方法についてきちんと書いてありますか。
- データの精度を考えて分析をしましたか。
- データの分析方法は適切ですか。
- 分析結果の書き方が不十分であったり、冗長になったりしていませんか。

3) 図・表

- 図表類を不必要に多用していませんか。
- すべての図表について、本文で言及してありますか。
- 図と表とを、適切に効果的に区別して、分かりやすい色と形で使っていますか。
- 図と表には、それぞれ通し番号と表題をつけてありますか。
- 図と表は、本文で言及している部分のできるだけ近いところに挿入してありますか。

4) 文献

- 他の研究(先行研究)を参考にしたり引用した場合、引用文献をきちんと挙げていますか。
- 引用文献の記載の仕方は「卒業論文作成・提出の手引き」に従っていますか。
- 引用文の写しまちがないように、入念に原典と照らし合わせましたか。
- 引用文献リストは、第一著者の姓のアルファベット順になっていますか。
- 引用文献の記載まちがないように、原典の奥付けで確認しましたか。

5) ページ

- 本文には1から順にページ番号がついていますか。抜けやページ数重複はありませんか。
- 目次に示した章・節・項のページと、本文の章・節・項のページが一致していますか。

・・・・・・提出まであと一歩！